

第 1 回計画審議会 開催報告

1. 概要

日 時：令和 7 年 7 月 1 日(火) 13:30～15:30

場 所：白馬村役場 2 階 201 会議室

参加者：27 名

内 容：(1) 村長挨拶、委嘱状交付、委員自己紹介、会長・副会長選出、諮問等
(2) 総合計画・総合戦略の策定方針
(3) 第 5 次総合計画の評価
(4) まちづくり村民アンケートの結果
(5) 意見交換(10 年間で良くなったこと・悪くなったこと)

2. 会長・副会長の選出

会長：松沢亨委員(白馬村教育委員) 副会長：山本孝男委員(白馬商工会副会長)

3. 策定方針

- ・ 少子高齢・人口減少社会を迎え、時代の変化に対応しながら「持続可能なまちづくり」を推進する。
- ・ 第 5 次総合計画の基本理念を踏襲し、多様性の尊重と寛容性の向上を目指す。
- ・ 長野県の総合 5 か年計画を踏まえ、「社会的共通資本」、「学びと自治」といった視点を取り入れる。
- ・ 「地方創生 2.0 基本構想」を勘案し、若者・女性の参画を促しながらまちづくりの体制を整備する。
- ・ 白馬村ゼロカーボンビジョンを踏まえ、各分野で環境負荷の低減・環境資源の保全に取り組む。
- ・ 財政計画や合理的根拠に基づく実効性の高い計画とし、的確な進行管理を行う。
- ・ 自治基本条例(仮称)の制定も含めて、住民の主体的な活動(自治)を推進し、多世代・多様な人々のつながりを育みながら協働のまちづくりを目指す。
- ・ 住みやすさ(住民の幸福度)と観光振興(稼ぐ力)の両立を目指し、同時期に更新する「観光地経営計画」と関連づける形で「持続可能な観光地域づくり」の視点を併せ持つ。
- ・ まちづくりの主体である村民がわかりやすい内容・表現とする。

4. 第 5 次総合計画の評価

令和 5 年度の実績に基づく内部評価(庁内)・外部評価(評価委員)の結果について報告した。

5. まちづくりアンケートの結果

配布資料に基づき調査結果を説明した。

6. 意見交換

グループに分かれ、「10 年間で良くなったと感じるもの・悪くなったと感じるもの」をテーマに対話した。

■主な意見(集約・抜粋)

■ 良くなったと感じるもの

メディア等にも多く取り上げられ、白馬村の魅力を多くの方に知ってもらい、観光客が増えた／観光の通年化が進み、稼ぐ力が向上して雇用が安定し、経済的にも活性化した／移住者が増え、コミュニティが多様になり、外国籍の児童・生徒も学校に通いやすくなった／ふるさと納税の寄附額が増えた／移住者に対する地域住民の接し方が優しくなった／多様性・国際化を受け入れる住民の寛容さが育まれた／廃屋が減り、景観的にも地域の安心的にも改善された／ほ場整備が進み、農業の効率化が実現された／気候変動(温暖化)により、水温が上がりお米の質が高まり評価されるようになった／河川整備が進み、水害に対する安心感が増した／スクールバスやデマンドタクシーなど課題とされてきた交通施策が充実してきた／子育て支援施設の整備など子育て環境の改善に向けた動きが出てきた／白馬高校の魅力づくりにより高校が維持され、地域と連携した学びが行われるようになった。

■ 悪くなったと感じるもの

地域コミュニティの関係が希薄になった／行政区や消防団など若い世代の担い手が減少し、活力が減退した／世代間交流機会の減少により心の豊かさが失われた／後継者や従業員など人手不足が加速した／地価や家賃の高騰により白馬に住みたい若者が流出し、近隣市町村から通勤する人が増えた／物価高騰等もあり、村民が気軽に利用できる飲食店が減少し、村民が集まる機会も減った／バス料金等も値上げされ、公共交通を利用する生徒の保護者の負担が増えた／冬季の訪日観光客増加に伴い、観光公害の不安が大きくなった／インフラ設備の老朽化が進み、不安が高まった／気候変動の影響により夏の過ごしやすさが失われ、自然環境への影響も不安が大きくなった／歴史や文化など、「白馬らしさ」、「日本らしさ」が失われた。

